

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 医学部医学科6年

氏名: 川畑隼介

授業科目名	選択実習(トロント小児病院)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>今回、カナダのオンタリオ州トロントにあるThe Hospital for Sick Childrenにて実習させていただきました。部門は臨床神経生理学で、てんかんや脳波について主に学習しました。朝夕のPICU、NICUのハンドオーバーやNeuroinflammatoryのカンファレンス、多職種が参加するseizure conference、ゲストスピーカーの講演会やepilepsy monitoring unitのカンファレンスなど多くのミーティングに参加しました。また、脳波の撮り方を技師の方から教わったり、外来見学では実際の臨床医の診察を見学したりしました。また、まだ世界で数例しか行われていない治療を見ることができました。この実習を通しててんかんなどの医学知識を学ぶことができただけでなく、カナダと日本の医療の違いなども学習することができました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>トロントは約50%が海外出身と言われており、世界中から来た人々が住んでいます。日本では街中で日本語以外がきこえることは少ないですが、2ヶ月間暮らしてみて多くの言語をききました。また、各地にそれぞれの国のコミュニティーがあるので多くの国の料理や文化を楽しむことができました。病院にも多くの国から来た留学生や医師がおり、他の国と日本の医療の違いや医学の学び方の違いなどをきいて興味深かったです。日本人の医学生が母国語である日本語で医学を学んでいるのは世界ではとても珍しいということも知りました。母国で医学を学ぶことができることに感謝するとともに、国際的に通用するためには英語での学習も必要であると実感しました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>実習中に、治療法がないと思われていた患者さんのために、ある医師が最新の論文を調べ、見つけた新しい治療法をスタッフに共有し、実際に施設で初めて行われた治療で患者さんの状態が改善したことが印象的でした。日頃から自身の専門について最新の知識を学術論文等で勉強していないとできないことだと感じました。私たちは医学生として目の前のテスト勉強をする際に、既存の知識だけに目が行きがちですが、日頃から最新の知識を調べるということも重要だと感じました。それからなるべく既存の参考書ではなく、論文や学術雑誌から参考文献を調べるようになりました。また、今回の症例のように新しいことを行う柔軟性も同時に身につけたいと感じました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p>	
<p>私が地域社会の発展に寄与できるとすれば、将来医師として患者さんにとって最適な医療を行うことだと思います。今はインターネットが普及している社会なので全国どこの地域でも医療資源の多寡はあるにせよ、最新のevidenceを学びその治療を行うことはできます。これからどのような地域でも通用する医学の知識と情報収集のスキルを学んでいきたいです。また、もう一度医師になってから今回のような世界的に先進的な施設での留学をしてみたいです。医師になってから留学することで自身の専門の最新の知識を学び、それを日本に持ち帰り、地域社会の発展に生かすことができればと思います。そのために、まず日本で医師になることを目標に残りの大学生活を頑張ろうと思います。</p>	